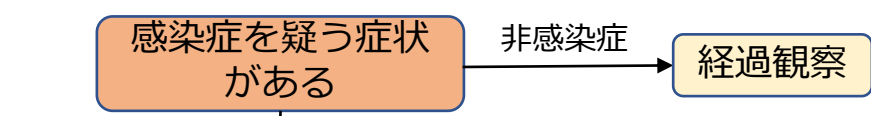
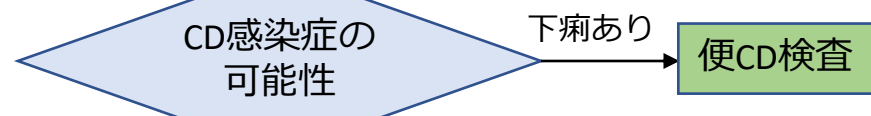


細菌感染症治療のベストプラクティス

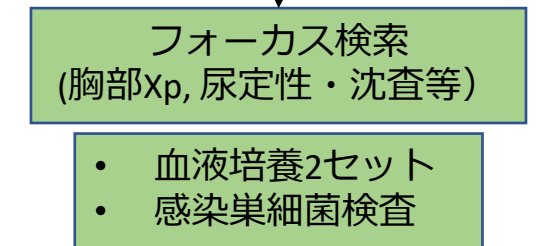


- 発熱をきたす非感染鑑別疾患の例
- 組織損傷（術後発熱）、輸血、血腫、出血
 - 悪性腫瘍・血液腫瘍
 - 化学物質：薬剤熱、悪性症候群
 - 痛風/偽痛風

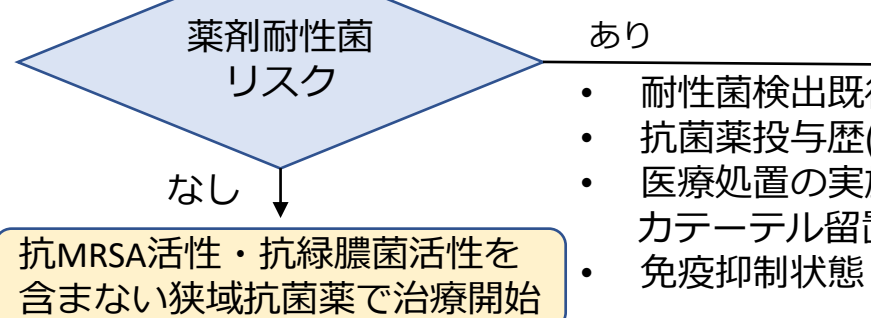
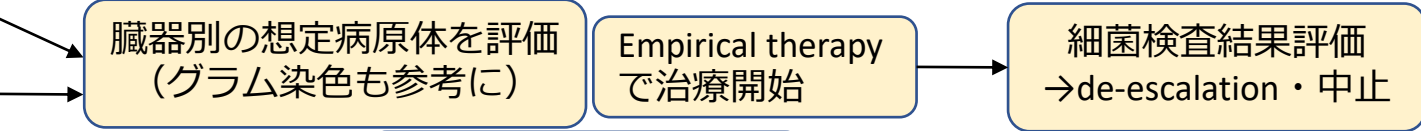
- 自己免疫疾患、サルコイドーシス
- 中枢神経性：脳出血、頭部外傷等
- 心臓血管系：心筋梗塞、血栓性静脈炎、肺塞栓症
- 消化器系：消化管出血、炎症性腸疾患等
- 内分泌系：甲状腺機能亢進症、褐色細胞腫
- Refeeding症候群：飢餓状態で急激な栄養投与



- トキシン陽性
- CD感染症の治療
 - 使用抗菌薬の中止



感染症	想定原因病原体	Empirical therapy
肺炎 (人工呼吸器関連肺炎; VAP)	黄色ブドウ球菌・緑膿菌など	第4世代セフェム系 (±MRSAリスクがある場合はバンコマイシン) <small>*肺膿瘍・膿胸以外はルーチンで積極的な嫌気性菌カバーは推奨されない</small>
手術部位感染	ブドウ球菌属 (腹部手術：腸球菌・緑膿菌など)	セファゾリン+バンコマイシン タゾバクタム/ピペラシリン
尿路感染症 (カテーテル関連尿路感染症)	大腸菌 腸球菌・緑膿菌など	セフメタゾール タゾバクタム/ピペラシリン
血流感染症 (中心静脈ライン関連血流感染症)	ブドウ球菌属など 緑膿菌	第4世代セフェム系+バンコマイシン



必要時は感染制御部やRRSへもコンサルト

原因病原体評価し最適化 必要時は感染制御部へもコンサルト